



TITLE:

## 社会研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

川村, 俊蔵; 河合, 雅雄; 東, 滋; 鈴木, 晃; 森, 梅代; 足沢, 貞成

---

CITATION:

川村, 俊蔵 ...[et al]. 社会研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1980, 9: 15-18

ISSUE DATE:

1980-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162889>

RIGHT:

久保田鏡(書評)(1978): M. A. アービッ  
ップ著, 金子隆芳(訳)「脳」サイエンス  
8, 114-116。

## 心理研究部門

室伏靖子・浅野俊夫  
小嶋祥三・松澤哲郎

### 研究概要

#### 1) 大脳半球機能の行動統制における非対称性

室伏靖子

切断脳のアカゲザルにおいて、色の見本あわせ課題では左半球優位が認められたが、線方向の同時弁別ではむしろ右半球優位が示された。この相違を線方向の二選択継時弁別とその般化を用いて、さらに検討している。

#### 2) ニホンザルにおける認知の発達

室伏靖子・松澤哲郎

出生直後から生後3年までのニホンザル乳幼児の知覚・認知機能の発達と身体・運動の発達について縦断的研究が進められている。

#### 3) チンパンジーの言語の獲得

室伏靖子・浅野俊夫・松澤哲郎

小島哲也・藤田和生

チンパンジーに人工語を教える訓練の基本的方法として異質見本合せ課題が用いられ、「もの」の名前(図形パターン)の学習が進行中である(言語学, 情報工学, 神経生理学の分野との共同研究)。

#### 4) 霊長類の選択行動における時間要因の検討

浅野俊夫

#### 5) 霊長類のコミュニケーションに関する比較行動学・神経生理学的研究<sup>1)</sup>

小嶋祥三

#### 6) ニホンザルの視知覚に関する心理物理学的研究

松澤哲郎

### 総説

1) 室伏靖子(1978): 霊長類の認知行動に関する比較研究。脳研究会会誌, 4, 219-226。

2) 室伏靖子(1979): 霊長類の行動 - 知覚から思考へ。「神経科学講座6. 行動と思考」

(渡辺格 他編), 149-188。

3) 浅野俊夫(1979): サルの行動分析。重症心身障害研究会誌, 4, 16-19。

4) 松澤哲郎・浅野俊夫(1979): 類人猿の「言語」習得。言語, 8, (9), 16-26。

### 論文

1) Murofushi, K. (1978): A hemispheric asymmetry of performance of visual conditional discrimination task in split-brain monkeys. "Integrative Control Functions of the Brain" 1. (M. Ito et al. eds.) 445-447. Kodansha, Tokyo.

2) 室伏靖子(1979): 視覚学習における大脳両半球の機能。文部省科学研究費補助金特定研究「脳の統御機能」報告書(2), 327-328。

3) 小嶋祥三(1979): 霊長類の短期記憶に関する研究。文部省科学研究費補助金一般研究(C)研究成果報告書。1-28。

### 学会発表

1) ニホンザルの箱図形の方向弁別にみられる「視空間の異方性」

松澤哲郎

日本動物心理学会第88回大会

動物心理学年報, 28, 57, (1978)

2) 乳児期ニホンザルの身体発育と視知覚の発達

松澤哲郎

日本心理学会第42回大会

発表論文集, 178-179 (1978)

### その他

1) 浅野俊夫(1978): 「オペラント心理学入門」(G. レイノルズ著, 浅野俊夫訳), 東京: サイエンス社。

### 社会研究部門

川村俊蔵・河合雅雄

東 滋・鈴木 晃

森 梅代<sup>1)</sup>・足沢貞成<sup>2)</sup>

1) 米国National Institutes of Healthにおいて研究

1) 教務職員 2) 教務補佐員

## 研究概要

### 1) ニホンザルの社会行動に関する研究—嵐山におけるリーダーオスの習性学的研究

川村俊蔵

鈴木延夫(北大・文・心理)ら4名の応援のもとに、リーダーオス6匹について、コザルをいじめる実験状況下における協調的行動その他の習性学的研究を行った。そのほか留学中のヤットルヒヤットを指導し、同じくリーダー6匹に関する定時記録その他を、約2ヶ月間にわたって実行させた。

### 2) ニホンザルの分布とその変動に関する研究

東 滋・鈴木 晃・足沢貞成

ニホンザルの分布の現状について、一次資料の集積をおこなっている。

### 3) ニホンザルの社会生態学、とくに自然群の環境利用とグルーピング・社会構造

東 滋・足沢貞成

ニホンザルの群れの連続した分布をゆるす環境で、遊動する群れがしめす生活と社会現象をとらえなおすために屋久島と下北半島西部の地域個体群について継続的な調査を行なっている。

### 4) ニホンザルの個体群の生活の維持に対する森林施業その他のhuman impactの影響の生態学的研究

東 滋

ニホンザル個体群の地域構造や生活のたてかたに与える人為営力の作用を生態学の文脈においてとらえる。もっぱら「自然」の側の反応を、異なる形式あるいは程度で人為の加わった地域間の比較と同一地域の時系列的変化の追跡により把握しようとする。下北半島の北西部・南西部の2つの地域個体群についての個体群変動の追跡と岐阜県下の天然林地域と「森林開発」のすすんだ地域の調査を行なった。

また平行して、おなじ環境変化がニホンザル以外の森林哺乳動物に与える影響についても調査をすすめている。

### 5) ニホンザルの地域個体群のあり方

鈴木 晃

上信越地方を中心として、ニホンザルの地域個体群の土地利用、個体群動態、遊動におけるスペーシングの問題、オスの群れの離脱等に関する社会関係等の調査およびとりまとめを行なってきた。

### 6) ニホンザルコドモの社会関係の発達

森 梅代

子守り行動における行動パターンと社会関係、特に性、年齢および血縁関係をもとに分析した。

### 7) 特別事業による、アフリカにおける野生霊長類の社会学的・生態学的研究

鈴木 晃

1977年8月から、1978年7月の期間、ザイルおよびケニアで現地調査を行なってきた。

### 8) アフリカにおける各種霊長類の社会学および比較生態学研究のまとめ

鈴木 晃

1964年より継続してきたタンザニア、ウガンダ、ケニア、ザイルでの各種霊長類の社会構造、生活様式、食性、個体群動態、遊動の在り方、土地利用等の問題を比較生態学的観点及び動物地理学的観点からの総まとめを着手。対象となる霊長類はチンパンジー、ゴリラ、クレストドマンガベイ、バブーン、レッドテールモンキー、バーベットモンキー、黒白コロブス、レッドコロブス等である。

### 9) インドネシア産ヤセザルの比較社会学的研究

川村俊蔵・渡辺邦夫

エディ プロトイスウォロ・ヤットルヒヤット

科学研究費(整理費)を以て、昭49,51,52年度にわたった、インドネシア各地におけるヤセザル類に関する社会・行動・生態にわたる研究の資料を整理し、「熱帯アジアにおけるヤセザル類の比較社会学的研究」をまとめた。このなかで、川村は*Presbytis melalophos*、渡辺は*Simias concolor*および*P. potenziani*、プロトイスウォロは*P. cristata*、ルヒヤットは*P. aygula*について報告を書いた。このうち渡辺の*P. potenziani*以外は、昭55年1月、インドのバンガロールで開催された第7回国際霊長類学会で発表された(渡辺の*S. concolor*はポスターセッション)。

別に各人ともそれぞれのモノグラフ形式の報文をまとめており、そのうちプロトイスウォロの分は、学位申請論文として提出された。

### 10) ヒヒ類の比較社会学的研究

河合雅雄

ゲラダヒヒとマントヒヒ、アヌビスヒヒの3種の社会を比較考察し、ヒヒ類の社会構造について考察した。

### 11) ゲラダヒヒのコミュニケーション行動

河合雅雄

ゲラダヒヒの音声伝達行動を量的、質的に分析し、それがワンメール・ユニットの統合に果たしている役割を分析した。

## 12) ゲラダヒヒの生物社会学的研究

森 梅 代

エチオピア高地で行ったゲラダヒヒの野外調査の資料をもとに行動パターンの分析とヒヒ類の比較社会学的研究を行っている。

## 総 説

- 1) 河合雅雄 (1978) : 動物社会学。現代精神医学大系, 1, 252-275。
- 2) 河合雅雄 (1979) : アフリカの霊長類の生態。アフリカ研究, 18, 84-94。
- 3) 東 滋 (1979) : クマの生物学と保護に関する現状。哺乳類科学, 37, 35-70。
- 4) 鈴木 晃 (1977) : ニホンザルの保護および国際的にみた霊長類の保護の現状。にほんざる, 3, 2-8。

## 論 文

- 1) Kawamura, S. (1979) : Social life of *Presbytis melalophos* in Sumatra.  
熱帯アジアにおけるヤセザル類の比較社会学的研究 (科学研究費研究成果報告書), 1-13。
- 2) Kawai, M. and U. Mori (1979) : Spacing within Units and Units Integrity. *Ecological and Sociological Studies of Gelada Baboons* (M. Kawai, ed.), pp. 200-217, Kodansha Ltd., Tokyo.
- 3) Kawai, M. (1979) : Auditory Communication and Social Relations. *Ecological and Sociological Studies of Gelada Baboons* (M. Kawai, ed.), pp. 219-247, Kodansha Ltd., Tokyo.
- 4) Kawai, M. and T. Iwamoto (1979) : Nomadism and Activities. *Ecological and Sociological Studies of Gelada Baboons* (M. Kawai, ed.), pp. 251-178, Kodansha Ltd., Tokyo.
- 5) 東 滋・足沢貞成・森 口・和田久 (1978) : 下北半島南西部のニホンザル地域個体群の生息環境の変化と個体群の動き。「ヒトとサル共存の道—北限のニホンザルの保護に関する調査中間報告」
- 6) 東 滋 (1978) : 奥美濃のクマとクマ狢。日本の歴史的な環境としての哺乳類 (四手井綱英編)「環境科学」研究報告, 58-66。
- 7) 東 滋・安藤辰夫・大竹勝・才田春夫・佐藤洋一郎 (1978) : 高原川源流域のカモシカ。昭和52年度文化庁委託研究「特別天然記念物カモシカに関する調査」研究報告書, 55, 125-130。日本自然保護協会。
- 8) 野崎英吉・平井賢一・東 滋 (1978) : 根尾西谷川流域のカモシカ。同上, 117-124。
- 9) Azuma, S. & H. Torii (1979) : Impact of human activities on survival of the Japanese black bear. *Proceedings of the IVth International Conference on the Bear Biology & Management* (Martinka, ed.) IUCN Publ. New Ser.
- 10) Mori, U. (1979) : Inter Unit Relationships. *Ecological and Sociological Studies of Gelada Baboons*, (M. Kawai, ed.), 83-92, Kodansha Ltd & S. Karger.
- 11) Mori, U. (1979) : Individual Relationships within a Unit. *Ibid.*, 93-124.
- 12) Mori, U. (1979) : Development of Sociability and Social States. *Ibid.*, 125-154.
- 13) Mori, U. (1979) : Unit Formation and the Emergence of a New Leader. *Ibid.*, 155-181.
- 14) Mori, U. (1979) : Reproductive Behaviour. *Ibid.*, 183-197.
- 15) Mori, U. (1979) : Social Structure of Gelada Baboons. *Ibid.*, 239-247.

- 16) 森 梅代 (1979) : ニホンザルの子守り行動の発達と性差。昭和53年度科学研究費補助金 (一般研究B) 研究成果報告書, 27-32。

報告・その他

- 1) 川村俊蔵 (1978) : インドネシアとの学術協力についての第二次展望。学術月報, 31(8), 49-53。
- 2) 東 滋 (1978) : 動物のなわばりとマーキング。ワイルドライフ, 9, 46-51。
- 8) 鈴木 晃 (1979) : チンパンジー, 野生のいとなみ。ワイルドライフ, 9, 46-51。
- 4) 足沢貞成 (1977) : 下北のニホンザル — その現状と変遷 —, にほんざる, 3, 11-22。

報告・その他

- 1) アジア産ヤセザルの比較社会学的考察  
川 村 俊 蔵  
第32回日本人類学会 (1978)

- 2) Social life of *Presbytis melalophos* in Sumatra.  
Syunzo Kawamura, VIIth Cong. Intern. Primat. Soc. (1979)

- 3) 木曾研究林予定地におけるニホンザル社会 (予報)

川 村 俊 蔵  
第23回プリマテス研究会 (1979)

- 4) 照葉樹林と哺乳動物

東 滋  
第26回日本生態学会, シンポジウム「照葉樹林」 (1978)

- 5) Habitat quality, Home range size and population features in Shimokita population of Japanese Monkeys.  
Shigeru Azuma & Sadashige Ashizawa  
Symposium "Distribution of Animal in Space" VIIth Congress of the International primatological Society, Bangalore, India. (1979)

- 6) Social Structure and Dynamics in Gelada Baboons (*Theropithecus gelada*)  
Umeyo Mori  
The Symposium, "Baboon Field Research: Myths and Models" at Seven Springs Center, Mt. Kisco, New York. (1978)

- 7) ゲラダヒヒの社会行動に関する行動生物学的分析

森 梅 代  
第32回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1978)

変異研究部門

野沢 謙・和田一雄  
庄武孝義・峰沢 満

研究概要

- 1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し, 群内・群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル約40群, 総個体数約2,000頭の血液試料について, 約30種の蛋白の構造を支配する計32遺伝子座の検索をおこなった。このデータをもとにして, 統計的検討を加え, 繁殖単位間の毎代の移出入率, 遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定をおこない, ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。

- 2) *Macaca* 属ザルの系統的相互関係

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルを含む *Macaca* 属ザル各種から採血をおこない, 上記1) と同一の方法によって種内・種間の遺伝的変異性を定量化し, それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し, それに数量分類学的手法を適用して枝分れ図を描く。それにより種間の近縁関係, 分化時間の推定等をおこなう作業を目下続行中である。

- 3) ニホンザルの先天的四肢奇型への遺伝的アプローチ

野澤 謙・庄武孝義・峰沢 満  
ニホンザルの数多くの餌付け群に多発する先天